

平成19年11月29日

都道府県医師会  
担当理事 殿

日本医師会常任理事  
今 村 聡

勤務医対策としての診断書作成支援ソフト導入のご検討について

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は本会の活動にご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、当会では勤務医の過重労働対策について、かねてより関係各方面に働きかける活動を続けて参りましたが、この度、社団法人生命保険協会（以下、生命保険協会）より、生命保険各社にて発生した支払問題の再発防止策として「診断書の機械印字化」に向けた取り組みを展開したいとの申し出がありました。

具体的には、生命保険協会が診断書作成支援ソフト（システムベンダー）の公募を実施し、厳格な審査のうえ「認定」を付与するとともに、その普及促進に向けての支援を行うという内容であります。

これを受け、当会としては、生命保険協会が実施する中立性、公共性ある取組みであることを前提に、生命保険協会の認定するソフト（以下、認定ソフト）の導入効果を中心にヒアリングを重ね、今般、認定ソフトの活用により、勤務医の診断書作成業務の負担を大幅に軽減する効果が高いことを確認致しました（添付資料参照）。

病院におきましても、認定ソフトの活用により、診断書の作成状況を適切に管理することができ、院内業務の効率化や患者サービスの向上に繋がるものと考えております。

また、当会としては、当該ソフトの導入にあたり、病院側の負担が極力少なくなるよう、生命保険協会に対し補助金措置を講じるよう要請して参りました結果、生命保険協会から、迅速な普及のために期間限定の支援策として補助金を支給するとの回答を得ております。

このように、認定ソフトにつきましては、病院、勤務医師、そして患者の全てにメリットをもたらすものと認められることから、貴会におか

れましても、地域毎の生命保険協会の進める認定ソフトの普及活動についてご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴会管下郡市区医師会へのご周知、ご協力方、よろしくお願い申し上げます。

以 上

(添付資料)

1. 診断書作成支援システムの効果《勤務医の労働環境の改善》

# 診断書作成支援システムの効果

## 《勤務医の労働環境の改善》

### 診断書作成時間を大幅に削減

- ①1枚あたりの作成時間を1/2以下に短縮（入院手術等の診断書）
- ②病院全体で作成時間が月47時間削減（300床の場合）

### 診断書作成に係わる負荷感を大幅に削減

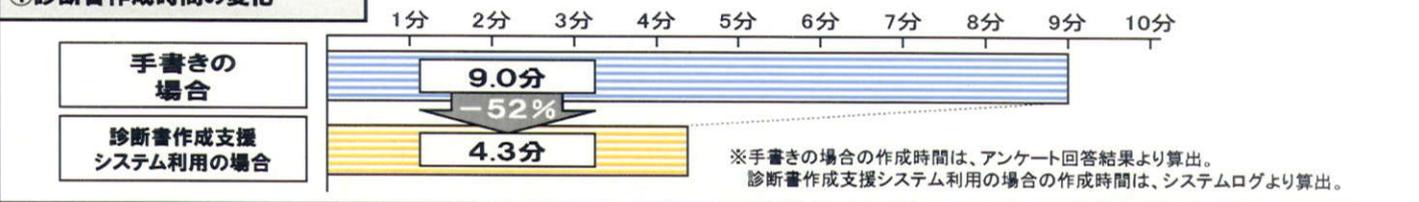
- ③9割以上の医師が、「診断書作成が楽になった※」と実感

※「とても楽になった」「楽になった」「少し楽になった」の総計

### 診断書作成が勤務時間内に可能に

- ④4割の医師の診断書の作成時間帯が勤務時間内に

#### ①診断書作成時間の変化



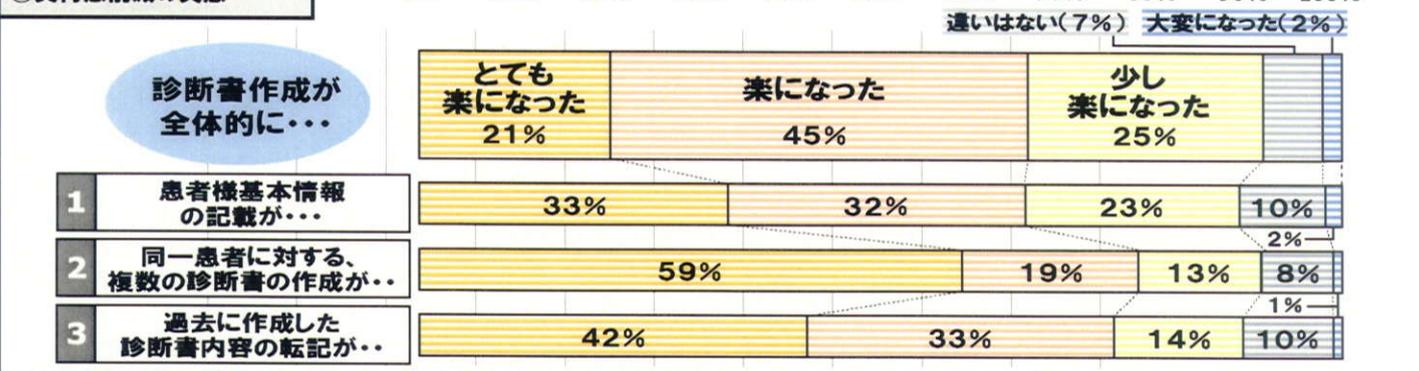
#### ②病院全体での作成時間の削減量

病床数	(想定)診断書発行枚数	(想定)作成時間の削減量
200床	月400枚	月31.3時間
300床	月600枚	月47.0時間
400床	月800枚	月62.7時間
600床	月1200枚	月94.0時間
800床	月1600枚	月125.3時間
1000床	月2000枚	月156.6時間

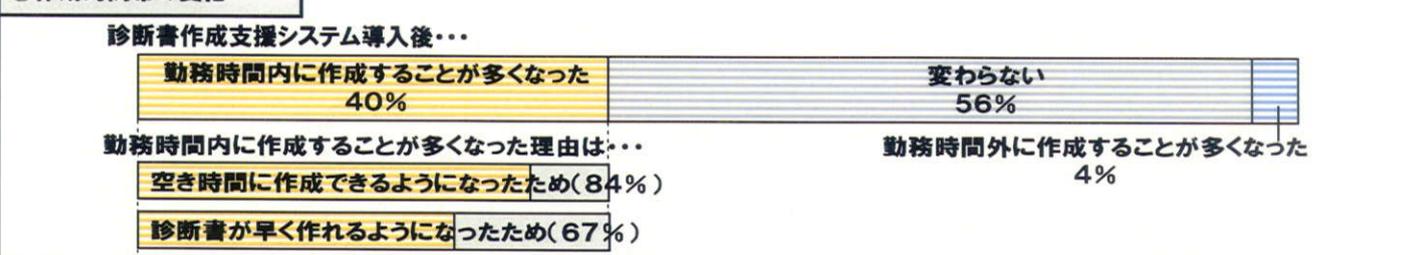
《診断書発行枚数の想定根拠》  
診断書作成支援システム利用病院のシステムログより、1床あたり月2枚の診断書を発行と想定

《作成時間の削減量の想定根拠》  
左記の全診断書に対し、1枚あたり前頁の4.7分の診断書作成時間が削減されることを想定

#### ③負荷感削減の実感



#### ④作成時間帯の変化



※生命保険協会 調べ  
 ※上記①③④は、診断書作成支援システム利用医師112名(8病院)のアンケート結果より  
 ※(連絡先)社団法人生命保険協会 企画グループ 電話:03-3286-2651